



# いっぺいといっぱく Vol.43



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。  
みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。  
また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。  
[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



## 互いに向き合う

私は、昭和21年生まれです。戦後、貧しかったけれど、自分が不幸だとは思っていませんでした。テレビ放送が始まり、テレビ画面を通して、他の人の恵まれた生活を見て、「ああいう生活がしたい」と思うようになりました。その頃から、日本が変わったと感じます。

「もっといいものが欲しい」「もっと美味しいものを、お腹いっぱい食べたい」

日本中が豊かさを目指して、一目散に突っ走った時代は、みんなが忙しく、地域はもちろん、家庭にすら、向き合う暇がありませんでした。働くお父さんたちは、家族のために、家族を顧みることなく働いていました。

今、社会問題となっている孤立死や引きこもり、虐待、家庭内暴力、いじめ、不登校、自殺は、互いが向き合うことができなかった時代が長く続いた代償ではないかと思えます。

インターネットの普及により、日本や世界で、今、何が起きているか知ることができます。しかし、今日、長久手市内でどんな活動が行われているか、どこで孤立死があったか、どんなことに困っている人がいるかを知っている人は、そう多くはないはずです。市内の情報を知らないのは、情報発信が十分でないこともありますが、地域がお互いに向き合っていないこともあると思います。

本市では、単身世帯の増加などにより、誰にも看取られず、自宅で亡くなる孤独死が増えています。その中でも、生前に周囲と十分な交流がなかったため、亡くなられていたことに気付かれない孤立死が問題になっています。

これまで市役所は、孤独死・孤立死が疑われる事例を市民のみなさんに積極的にお知らせしていませんでしたが、現状を知っていただくことが、互いに向き合う第一歩だと思い、今月号の「広報ながくて」からその件数を掲載することにしました(広報紙中面のイベントカレンダー内にある「統計情報・月間異動数」に掲載※)。

市役所は、いろいろな業種の事業所と見守り協定を結ばせていただいています。協定も必要ですが、何より大切なのは、「今日、あの人、姿を見ないね」という地域の見守りです。お互いに向き合うことがなかった地域のあり方を見直し、今から行動を始める必要があります。

互いに向き合い、あいさつ、声掛けすること、地域で見守ることは、今の社会では大変わずらしいことですが、孤立死だけでなく、引きこもりや虐待、家庭内暴力、いじめ、不登校で苦しんでいる人にとっても、必ず役立つはずです。

※孤独死・孤立死が疑われる事例の件数は、消防に通報があったが、救急車到着時に既に心肺停止状態であった単身者の場合、そのほか、死亡後に発見された方で、市がその方の生活状況を把握できた場合を合わせた件数です。



**長久手市地域見守り安心ほっとライン**  
24時間365日

0561-63-5556

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市  
NAGAKUTE CITY

専用ダイヤルを記載した名刺サイズのカードを安心安全課で配布しています。



## 表紙の写真もう一枚

2月3日の節分の日に合わせて、各保育園で豆まきが行われました。長湫南保育園では、年長さんが「鬼役」、下の子どもたちは新聞紙で作った「豆」を使って、豆まきを行いました。その後、節分についてのお話を聞き、節分のことを楽しく学びました。

スマートフォンで広報ながくてを持ち歩きよう!

App Store

Google Play

「マチイロ」で検索  
▶ダウンロード

